

平成23年度概算要求 重点化枠入国管理局要望額のポイント

新成長戦略(観光・地域活性化戦略)～観光立国の推進～
訪日外国人数を2020年初めまでに2,500万人、
将来的には3,000万人とする

国民生活の安定・安全のために
厳格な上陸審査は重要
観光立国推進のためには
上陸審査の円滑化・迅速化が必要

1 船上入国審査の拡大

- ・大型クルーズ船入港予定船舶数の増加
- ・海外の出発港に入国審査官を派遣し、船上で上陸審査を行い、着岸後速やかな入国を実現

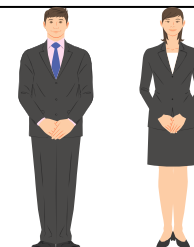
H23要望 39百万円



2 審査ブースコンシェルジュの配置の拡大

- ・上陸審査手続案内等の体制整備を図り、訪日外国人へのきめ細やかな対応により、審査の円滑化・審査待ち時間の短縮に貢献

H23要望 397百万円



3 バイオメトリクスシステムの運用・強化

- ・バイオメトリクスシステムの処理能力向上のための調査・研究
- ・一体型携帯バイオ端末の調査・研究

H23要望 4,865百万円



観光立国推進のための出入国審査業務の維持・強化

H23要望合計 5,301百万円

船上入国審査の拡大

～観光立国の推進～



観光資源として魅力的な大型クルーズ船

審査待ちをする乗客

クルーズ船には、1隻あたり平均して約2,000人の乗客が乗船しており、船上審査を行わない場合、審査時間が長くなり、滞在時間が短くなる。

円滑な入国審査の実現



船上審査実施体制強化による
上陸審査待ち時間の短縮

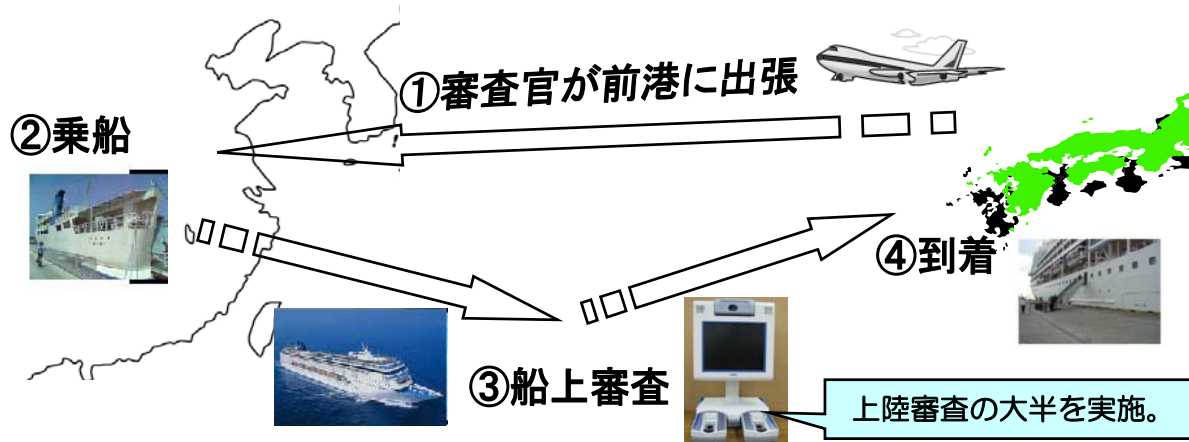
審査待ち時間を短縮し、大型クルーズ船（ジャンボジェット4～5機分相当）の乗客を着岸後遅滞なく下船させるために海外に入国審査官を派遣し、着岸までの時間を利用して審査を実施している。
アジア地域でクルーズ船の需要が高まる中、クルーズ観光の活性化や地域経済の発展のため、受入れ先の地方自治体からも円滑な入国審査の実施が強く要請されている。

観光消費額の増加による
地域経済の活性化



船は1日で移動（乗客は日帰り観光）
船上入国審査なし
→上陸まで**3時間**
船上入国審査あり
→**速やかに上陸可能!**

船上審査のフロー



日帰り観光
満喫
ショッピング
グルメ

経済効果あり

平成23年度要望額
39百万円

大型クルーズ船計119隻に対し、延べ402人の入国審査官を派遣。

審査ブースコンシェルジュの配置の拡大

～観光立国の推進～



上陸審査場



- ～審査ブースコンシェルジュの役割～
1. 審査場入り口での乗客の振り分け
 2. 審査場の記載台におけるEDカードの記載案内
 3. 申請待ちの上陸申請者への案内
 4. バイオメトリクス取得手順の案内・補助
 5. 要注意審査を要する場合や指紋取得が困難な場合など、セカンダリ審査が必要な場合に別室への案内
 6. ブースすり抜けを防止
- ※ 混雑する審査場の停滞・混乱を防ぎ、限られた審査場のキャパシティを最大限効果的に使って、円滑かつ負担感の少ない入国審査を実現

EDカードの確認・記載案内

空いたブースへの誘導案内

EDカード?
What?

バイオ?



スムーズな
審査の実現!

バイオ端末審査の案内



審査の円滑化
審査待ち時間の短縮

EDカードの記載、
バイオ端末操作の
不慣れが、審査の
停滞の要因

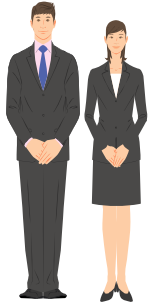
①入国審査官に旅券とEDカードを提出



②指紋の取得



③顔写真の撮影



【訪日外国人の誘致】
訪日外国人を2020年初めまでに2,500万人、将来的には3,000万人とする。

経済波及効果 約10兆円
新規雇用 56万人

平成23年度要望額
397百万円
成田、羽田、関西、中部空港等32海港に配置。
(約59人/日)

バイオメトリクスシステムの運用・強化

問題点

厳格審査と審査待ち時間

テロリスト等を水際阻止する厳格審査のためのバイオメトリクスの取得・照合が審査時間が短縮できない要因の一つとなっている。処理速度を早くする必要がある。



バイオ情報照合の強化

故意に指腹を損傷させ、指紋照合の突破を試みる外国人が増加していることから、バイオ情報の機能を強化する必要がある。

携帯型バイオ端末の弊害

複数機器で構成されている携帯型端末は各機器の結線作業が必要なうえ、バイオメトリクス取得・照合の時間が長い。



対応策

1 (1) 上陸審査環境整備の調査研究

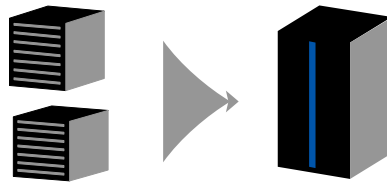
バイオ審査の在り方について有識者の意見等を踏まえつつ上陸審査環境全体を見渡した調査・研究を行う。



1 (2) バイオ情報照合強化のための調査研究

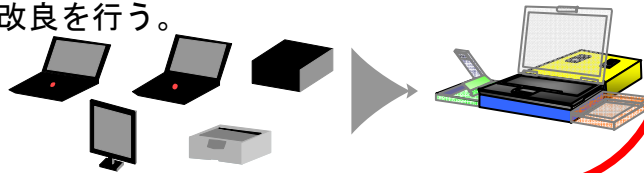
バイオ情報の取得・照合の精度向上と時間の短縮を図るため、調査研究を進める。

厳格審査を徹底しつつ
審査時間の短縮



2 一体型機器の調査研究

複数機器で構成されている現行携帯型端末を一体型として効率化を図るための改良を行う。



両立

国民生活の
安定・安全の維持

平成23年度要望額

4,865百万円

(調査・研究等経費)

※バイオメトリクスシステムとは、外国人の上陸審査において、当該外国人の指紋等の個人識別情報の取得とブラックリストとの照合を行い入国審査官に情報を提供するシステム